



Bulletin of Junior College Library Association

編集者
菅原春雄
発行者
もりきよ
発行
私立短期大学図書館協議会

1977.12 No. 1

協議会発足にあたって—会長あいさつ—

もりきよし

私は、去る9月大阪で開催された第1回総会において、
凶らずも会長に推薦されました。まことに光栄ではあり
ますが、私個人は高齢であること、ささやかな勤務館で
あり、また日々雑務多端であり、さらに私の性格からみ
て会長にはきわめて不適任だと思っています。したがっ
て、固辞すべきでありましたが、せっかく拍手を以て迎
えられましたので、この際アッサリと初代会長に就任す
ることに致しました。もちろん、お引受けした上は役員
をはじめ加盟校みなさんのご支援とご協力を得て、力不
足をカバーしながら、できるかぎり努力するつもりです。
そして、この会を、一日も早く軌道に乗せ、若い世代の

ベテランにバトンタッチをしたいものです。どうかよろ
しく。

さて、大学図のなかでも、私立短大図にはもっとも多
くの課題をかかえているようです。この会が発足した意
義もここにあります。これらが急速に解決されるもので
ありませんが、一つ一つの問題点をとりあげ連絡と協調
を密にして研究をつづけ、そのつみかさねで一歩でも短
大図の改善充実の方向づけが設定して行くべきでしょう。

更に、JLAをはじめ、公立短大図協、私大図協、全
図連など関係団体及び日短協、東短協の協力支持を得て、
この会の発展を期待する次第です。(当日の挨拶から)

創立総会議事録 —私立短期大学図書館協議会—

日時：昭和52年9月29日(木)

場所：建設保証ビル(大阪)

進行：杉浦 允(産業能率短期大学)

司会：川崎文策(鈴峯女子短期大学)

記録：岡野盛繁(東横学園女子短期大学)

芝原 翠(東洋英和女学院短期大学)

創立総会は、まず杉浦 允氏(産業能率短期大学)の
開会の辞にはじまり、川崎文策氏(鈴峯女子短期大学)
の司会により議長として、宮城 清氏(仙台白百合短期
大学)、菅原春雄氏(文教大学女子短期大学部)の2氏
を選出の上、議事に入った。

1. 経過報告

安部益巳氏(東京女子大学短期大学部)から設立の趣
旨、目的について解説をまじえながら大要つぎのような
経過報告がなされた。

短期大学図書館協議会の発想は既に昭和35年にその
萌芽をみたものであったが、具体的な動きにまでは至ら
なかった。短大図書館の動きを追ってみると、昭和35

年の全国図書館大会(福島)ではじめて大会の中で短大
部会の会合がもたれた。さらに5年後の昭和40年には、
大学図書館部会の中に常設の部会として短大分科会が設
置された。昭和46年には、公立短大図書館協議会が結
成された。昭和49年の全国図書館大会で、大学図書館
部会から独立部会への動きが表面化し、翌年の昭和50
年全国図書館大会(松江)でそのことが確認された。次
いで昭和51年、ついに短期大学図書館部会として独立
できたわけである。私立短期大学図書館協議会設立の必
要性、また設立への具体的活動は、この日本図書館協会
の短期大学図書館部会の中で急速に盛り上がり、今日のこ
の創立総会を迎えることに至ったのである。現在、日本
の図書館にはそれぞれ種別別の全国組織がつけられている
が、私立短大図書館だけが母体となるべき全国規模の
組織をもっていなかった。すなわち、私立大学には、私
立大学図書館協会があり、公立短大には、公立短期大学
図書館協議会があるというように、それぞれの全国的な
組織体をもっているわけである。従って私立短大におい

ても、自主的な組織体の必要性が望まれて、本日の創立総会を迎えることができたと考えている。なお、今日（9月29日現在）までの加盟校は実に102校に及んでいることをご報告する。（編集部注11月17日現在113校）

2. 役員選出

会長をはじめとする役員を選出については、仮事務局提案による原案を承認した。なお、欠員補充については紙上総会による承認を可とする旨議決した。

会長 もりきよし（青葉学園短期大学）（敬称略）

監査 柴田さち子（立教女学院短期大学）

（欠員1名は後日補充する）

理事定数 地区選出理事 7名 会長推薦理事 5名
地区選出理事

坂本竜三（北海道武蔵女子短期大学）

宮城 清（仙台白百合短期大学）

片山喜八郎（国学院大学栃木短期大学）

梶田 一（愛知淑徳短期大学）

前川和子（大谷女子短期大学）

川崎文策（鈴峯女子短期大学）

村上博子（西南女学院短期大学）

会長推薦理事

安部豊巳（東京女子大学短期大学部）

岡野盛繁（東横学園女子短期大学）

芝原 翠（東洋英和女学院短期大学）

菅原春雄（文教女子短期大学部）

（欠員1名は後日補充する）

3. 会長挨拶

巻頭に掲載。

4. 事業計画

安部豊巳氏から、発起人会で確認されたものの中から少しづつでもやれることはやっという、ということで出された案の説明がなされた。

① 会報の編集発行

短大図書館界の現状をお互いが今まで以上に知り合うこと。会員の声を反映して、絶えず意見の交流をはかること、さらに身近な問題点の発掘による継続的な積み重ね研修等々が考えられる。

② 図書館利用案内、マニュアル等の自館資料の交換。

はじめは地区のメンバー同志で交換し合い、やがては全国的な規模に拡げられることも考えられる。

③ 地区協議会の結成

本協議会の活動は、経常的には活動母体が地区協議会になると考えられるので、それぞれ自発的に積極的な意見を出し合い、活動計画を練っていただきたい

い。できるだけ早くそれぞれの地区協議会が結成され、具体的な歩みが踏み出せるように、地区理事に絶大なる支援とご協力をお願い致したい。

5. 会員からの質問、意見についての説明

本日の創立総会までの間に寄せられた、会員からの質問、意見について、安部豊巳氏より説明がなされた。

1) 日短協の図書館研究委員会（研修会）との関係について。

過日、日短協図書館研究委員会で正式に協議題としてとりあげられた。本協議会は日短協図書館研究委員会とは別組織であることの確認と、従って私立短大図書館協議会への加盟は、それぞれの短大がその活動の趣意を認識の上独自の判断でおこなえばよいということが確認された。私立短大図書館の充実と発展のためお互いに協力し合いながらあゆんでいくことを願っている。

2) 日本図書館協会短大図書館部会との関係について。

先の経過説明でも触れているように、日本図書館協会の大学図書館部会の場合と同じ形だと思えます。大学図書館部会の活動母体として、国立大学図書館協議会、公立大学図書館協議会、私立大学図書館協議会の三つの全国組織があるように、短大図書館部会にも、すでにある公立短大図書館協議会とこの私立短大図書館協議会ができて、やっとうち大学図書館部会と同じレベルになったと考えています。

6. フロアからの意見

①常盤学園短大（木寺清一氏）：私立短大図書館協議会が結成されたことに大賛成である。日本の図書館はまだまだ貧弱であるが、なかでも短大図書館は特に貧弱である。本日協議会が結成されたことは大変うれしいが、むしろおそきに失した感がある。短大の予算、人員の面でもお寒い話だと思う。（「世界」12月号に宮原誠一氏が「コミュニティ・カレッジとは何か—米国の“開かれた大学”を見る—」という論文を発表している。その中で、氏はアメリカにおけるコミュニティ・カレッジを紹介し、やがて我が国においても、大学改革の一環として我が国の寸法で、ポスト・セカンドリーの大衆的な教育機関をつくりだすことが、あらためて検討されるべきときがきていると述べ、続いて我が国における短大の在学者は約35万人であるが、約90%が私立短大在学者であり、そのうち約86%が女子である。またわが国の短大は外形だけはジュニア・カレッジとは異質のものであるが、異質であるがゆえにかえって短大の再検討にコミュニティ・カレッジが参考になると思う。）これからは横のつながりも必

要でしょうし、お互に協力し合っただけでいい。よってこの協議会結成は、非常に心強いと考えている。今後の活躍を大いに期待する。

②名古屋短大：日短協の研修会は今年開催されなかったが、今後はどうなるのか、別組織ということであれば、私立短大図書館協議会とは平行しておこなわれるか？

日短協のことについては不明である。私立短大協の今後については、我々が自主的に決定していき、その活動内容が存在を示すことになるだろう。

③梅花短大（林氏）：この協議会が出来たことには賛成である。また図書館に勤めている者にとってこの組織の必要性はよくわかる。しかし総会の運営方法には

問題を感じる。時間をかけて充分納得のいくようにしてもらいたい。そして1人1人の声が反映できるようにしてもらいたい。また大学当局に加盟の必要性を説明するのに若干資料不足ではなかったか。

④文化女子短大（古田氏）：規約を練り直してほしい。会員は図書館単位であるはずである。従って役員は館名で表示されてもよいのではないかと、また総会で採択する事項、理事会で採択する事項などいわゆる採択内容の方法を規約に盛り込んでほしい。

司会を担当した川崎氏の閉会の辞により、私立短大図書館協議会創立総会は午後5時30分閉会した。

（当日の参加 62館 93名）

＜ 会 員 校 の 声 ＞ 第 1 回

なんの変哲もない一本の糸・縦糸と横糸に仕分けられ機にかけられる。巧妙な織物が織りだされてくる。

「縦」と「横」の関係は、思いがけない美を創り、強さをうみ、そして一本の糸にはない価値とあたたかさをつくる。私は、その織りなされた布に「私立短期大学図書館協議会」がなって欲しい、という切なるおmoiをこめてペンをとります。

二十七才、夢と希望と活力に満ちた青年、いえ、私共の「短期大学」が刻み付けた年、高等教育機関としてその位置を定着させ、創設以来3・5倍の数をかぞえるほどになりました。でもそれが発展・成長・充実として捉えることが出来ない悲しさを思います。特に図書館にあっては、予算も設備も人員もきわめて貧しく厳しい現実の中に置れているのです。1960年「図書館界」に発表された藤田豊先生の「短期大学図書館の実情と諸問題」を改めて読み返しました時、事の重大さに愕然としたのです。10年1日の如く同質の実態と苦悩が現在も続いているからです。生涯教育が叫ばれ、修業年限の短かさが女子教育のかっこうの場として盛んになった裏に、設置基準をみたし、認可がおりると同時に図書館の苦悶がはじまるからです。小規模組織の中で働く館員は、井の中の蛙に似て、柱にぶつかり、壁にさえぎられ、八方塞がりの中であがいている。本質的に少しも変っていない現状を思う時、今度結成された「私立短期大学図書館協議会」は一筋の光明にもて意義深いことと信じます。

設立趣意書に謳われているように、全国の私立短大図書館のネットワークをしっかりとくみ、一致協力して相互連絡・情報交換・継続的な研究活動をすすめて発展向

上を計ることのうち、特に相互協力活動の活潑化を望みます。なぜならば、小規模で、少額の子算しかない図書館が、より効果的にその機能を発揮するために、必要条件であると思うからです。同一学科ごとの研究部会の編成・資料の選択と蔵書構成に関する研究会、共通資料として図書館利用案内・目録のつかい方やレファレンスの案内、オリエンテーション用のスライド・レポートの書き方、相互利用の案内等の作成……、たとえば、家政学科の中でも、家政学・家庭経済・食物学・栄養学・被服学・服装デザイン・編物・室内インテリア等あらゆる分野を網羅している所もあれば、食物学科系のみのところもあるように、様々な事情を持ちながら、なお館ごとに分担しあい、その主題に関する参考図書・書誌・基本図書・紀要・雑誌論文についての研究、目録の作成、あらゆる資料交換をし、蔵書の量、質の差をおぎない合い、連帯しはげまし合っていく。家政学のバックグラウンドを持った司書として利用者の信頼を得るために研鑽を積み、現場の改善により建設的な展開が出来るようになれば素晴らしい。何をしたくても、日常業務に追われ追われている小さな図書館で働く方々が、あらゆる限界につきあたり、失望した時、ふと思い出し、ちょっと話してみよう、聞いてもらおう、と思えるそんな血の通った仲間の研究の場、連帯の場として育てられていく「短大協」であって欲しい。それは、選ばれた委員まかせて出来ることではなく、各々の館の努力からはじめてその一歩が踏み出せることを信じ、私の願いが、かなっていくことを希望しペンを止めます。

杉山敏子（フェリス女学院短期大学図書館）

「短大図書館めぐり」 第1回

東筑紫短期大学図書館

本学は昭和11年、筑紫洋裁学院として発足、昭和25年、東筑紫短期大学を設立、被服科を設置し、今日では、一般教育科、被服科、保育科、栄養科の四科を設け人材の育成にあたっている。学生数は1,160名であり、図書館利用学生数は、1日平均約100名である。図書館は、学園創立40周年の記念事業の一環として昭和51年3月末に落成開館した。建設に関しては、早くから要望があったが、具体的に計画が進められたのは、昭和48年9月頃である。図書館建設準備委員会が発足、筑紫会（同窓会）、後援会、その他、学園内外有志の協力を得て、昭和50年9月に建設に着手、総工費1億6千万円、鉄筋コンクリート4階建て、総面積1,854㎡の図書館の完成を見たのである。新図書館は、独立した建物であり、従来の閉架式を改め、開架式を採用、2階と3階に開架書架、閲覧席を設けている。貴重図書は、館内閲覧利用となっている。1階の児童図書室は、付属幼稚園の園児が利用出来るようにし、担当保育者が園児の読書指導に当りうるようにしている。その他、自習室、

グループ研究室、ロッカー室、保健室、管理人室、守衛室などがある。2階は、事務室、館長室、教職員閲覧室、貴重図書室、目録コーナー、レファレンスコーナー、定期刊行物、一般書架、閲覧席、受付を設け、3階には、書架、閲覧席、4階には作品展示室、視聴覚設備室、視聴覚教室、21畳の和室会議室を設け視聴覚設備室には、必要機材を設備している。視聴覚教室は、120席を設置している。閲覧席は、3階72席、2階レファレンスコーナー20席、教職員閲覧室12席、その他、自習室、グループ研究室を含め、総数162席である。蔵書収容可能冊数は43,800冊であるが、昭和52年11月現在の蔵書総冊数は、34,026冊である。本図書館の蔵書は、美術書の他に、各科の学科内容に関連のある図書を収蔵している。独立した図書館とはいえ、内部設備、図書の充実はこれからであり、今後の努力にかかっている。図書館職員は、館長の他に、司書5名（男性1名を含む）で、管理運営にあたっている。

<地区協議会活動報告>

○北海道地区

地区理事の坂本氏が、東京で日本図書館学会が開かれた際、上京され、安部常務理事と話し合いが行われ、今後の短図協、地区活動の進め方など協議され、近い内これからの活動計画が示されるものと期待する。

○東北地区（宮城理事）

東北地区協議会第1回集いが去る11月12日（土）午後2～5時まで仙台市内の聖和学園短大で開かれ、7館14名の出席で行われた。

- 1) 図書館見学
- 2) 聖和学園松田学長あいさつ
- 3) 自己紹介
- 4) 短図協の位置づけ、目的、性格、見通し、実情、地区事務所、短大図書館に関する調査や報告の紹介など話し合いが行われた。

○発言から

- ①「カード書きが追いつかない」に対し、a新しいもの、自分が来てからのものは、きちんと作っている。今後

増える恐れがない以前のは、出来るときに少しずつ b基本カードに基づいて、他の係が、書名・著者名の日録を手書きする。c事務用と利用者用とを兼ねさせると、複製や編成の手間が省ける。整理室と閲覧室とが近ければ可能。

- ②図書館に出来ない逐刊物：a 紀要や短期大学教育（年刊）等はリストを作り、図書館に回すよう事務所や教授会に働きかける。b 先生方への回覧や学長宛のものも、まず図書館で受入れてから。
- ③図書館調査：各館の実情は結果をまとめた一覧表を見るより直接伺いたい。同じ数値でも、条件が違えば、意味内容が変わって来るので、印刷物では読み取れない点も、はっきりして来る。
- ④蔵書数：収容量に限度があるので、あまり増やしたくない。蔵書を更新すれば、増やすよりかえって効果的。そのため、役立たなくなった本。不要本（版が古い。基準や年度が変わった、など）はどんどん除籍し、先生方や学生に無償で配布。納得されるまで数年準備した

ので、現在反対や障害はない。除籍本の目録として、登録番号順は台帳のまっ消分で、除籍番号順は除籍台帳でわかるので抜き取った目録カードは、うち1枚を書名目録に再編成するだけにとどめる。

⑤設置基準：a 学科増設のため買った数千冊の本を、専任者がいないので、短大の先生方や高校の先生、学生アルバイトで夏休みに整理した。図書館の大変さが身にしみてわかった。b 総合学園の共用から短大の専用になったので(？)、基準以下の冊数。年度によって重点学科を決めているが、予算不足。消耗的図書は資産に見なされないので冊数が増えずに困っている。

⑥改善要項：a 学校側で考慮してくれない。無視されている。b 無理な事は望んでもむだ。与えられた条件内で努力を重ねている。

⑦年度予算：毎年5月に知らされるのを待っていたが、検討した内容に基づき、手順をふんで請求するようにして良くなった。

○開いて良かった点

①規模も大差ないし、同じ様な問題をかかえているという安心感から、互いに気持ちを通じ合う。

②仲間同志という感じ。同じ地域でも、4年制の大学や公共図書館と同席したときはまるで違う。

③こうして顔を合せてお近づきになり、色々な事を話し合える仲となるのがうれしい。

④この場では時間がなくても、問題があれば知り合った方と直接電話なり手紙なりで相談が出来る。

○希望など

①会員名簿がほしい

②他の図書館も見学したい

③日帰りが出来る所なら出席出来る

④次回は来年度

○関東地区

総会における事業計画、在京理事会記録にも示されているように、今実施すべき事柄が相当あり、その整理と実現への具体案を検討している。さしあたりの事業計画として、講演会、研修会、新人職員のセミナーなど予定している。明年早々にはNDCの改訂にともなう適用のしかたなどについてもり・きよし氏(会長)によるセミナーを予定している。具体的日時が決り次第加盟館へ案内する。

○近畿地区

11月17日在京理事会へ前川氏が出席され、地区協議会の今後の進め方について助言を得、近々に第1回の会合がもたれるようである。

○九州地区(村上理事)

<九州地区第1回研修懇談会記録>

日時 1977年11月10日 13時～16時30分

会場 西南女学院短期大学図書館

講師 東京女子大学短大部図書館課長 安部全巳

出席 14館(加盟11、未加盟3)21名

I 当番校長挨拶 西南女学院短大校長

尾崎主一

II 報告ならびに講演 講師 安部全巳

1) 報告

私立短大図書館協議会設立の経緯および現状、当面の動き、今後の課題について。

2) 講演 「私立短大図書館の諸問題」

講師の持参された資料により短大図書館の現状(図書館白書1977)、短大図書館を組織と運営面より見た問題点(短期大学図書館の現状と課題。季刊牟礼16号～19号別刷)、図書館員・教員・学生サイドより見た図書館の実態について(昭和52年全国図書館大会短大図書館分科会資料)等具体例を示しながら問題を掘り越し、今後の我々の使命は日常業務の中に埋没してしまおうのではなく、短大教育の中における短大図書館をマクロ的に見ていかななくてはいけないのではないかと結ばれた。

III 質疑ならびに懇談でとりあげられた問題

1. 私立短大図書館協議会について

○加盟の単位を個人としないで館単位にしたことについて。

○協議会費と地区研究会会費について。

○日本私立短大協会図書館研究会との関わりについて。

2. 各館の問題点について

○図書館の学生に対する広報活動について。

○教育職員の図書館に対する協力について。

○図書館職員の増員について。

○司書職の専門性について。(図書館外への配置転換について)

○中高図書館との併用について。

○図書館建築に際しての問題点について。

○図書館新築後の内容の充実について。

○大学の理事者、学長と図書館とのパイプ役である図書館長の問題点について。

○奉仕、レファレンス部門の活動拡充について。

○目録カード作成上の問題について。

○利用価値のない図書の選別について。

○図書館狭陰のため分散させた図書の管理について。

○司書課程をもっている短大図書館の問題について。

〈事務局報告〉

第1回 〈在京理事会記録〉

日時：昭和52. 10. 13 (木) 14:00-16:30

場所：青葉学園短大 会議室

出席者：会長及び安部、岡野、芝原、菅原の各理事

I、報告事項 (安部理事より)

- (1)昭和52.10.12現在で加盟校107校
- (2)東北地区理事校からの連絡(当面の活動方法について)
- (3)北海道地区理事校からの連絡(坂本理事10月15-16学会に上京)
- (4)九州地区でNDL館長と地区大学図書館長との懇談会が行われるので、それに安部理事が出席の予定。
- (5)私大図協との情報交換(10.7)。常任理事校(日大)と安部理事

II、協議事項

- (1)9.29に行われた準備役員会及び第1回総会記録の確認
- (2)常任理事校に東京女子大短大(安部 豊巳)を互選し、また同大学図書館に事務局をおくことに決定
- (3)各理事の担当を次のとおり決定。欠員理事校の補充が決まるまで、規約、財務担当は会長がかわる。
安部 常務理事 — 事務局、総括、会計、渉外
岡野 理事 — 連絡、広報、記録
芝原 理事 — 研究活動
菅原 理事 — 会報編集
- (4)幹事の委嘱を承認(会長名を以て当該館長に文書で依頼する)。会長校に森司書(青葉短大)、事務局校に1名委嘱するが、これは担当理事に一人
- (5)理事校、監査校に対し、「会」名を以て当該短大の学長、旧長宛に「総会で選出されたので承認していただき協力していただく」よう書面を以て要請する
- (6)理事校の補充については、四年制大学図書館と共用、共同である短大図書館」ということを考慮にいて、具体的に選考する。
- (7)総会に出された意見の取扱いについて

- (a)役員は個人を対象にするのか、学校を対象にするか
○規約によって学校であることは明白である。但し専図協、私大図協などの表現形式を参考に協議した結果、とりあえず役員名簿では学校名の次に担当責任者名を、また委員名、幹事名のときは個人名に学校名を併記する形をとることに決定

- (b)規約の整備(例えば総会の審議事項の明文化など)
○規約担当理事の下で検討し手直し案を考え、できれば諸手続をとって次の総会で修正する。

- (c)日短協、東短協との関係について

- 連絡を密にし、協調を強める

- (8)事業、活動については、課題、項目について、いくつかの意見がでたので、研究担当理事の下で、さしあたり着手すべき研究課題を設定し、これを重点的に推進することにした。次回で本格的に協議する。なお経費不要で実施できる講習会(例えばNDC改訂について)を明年2月頃に開催してはどうか、

- (9)ニューズレターを早急(年内)に刊行することを決定し、その内容について安部理事案を中心に話し合い、会報担当理事に一任。なお誌名は次回に決定。

- (10)運営について。理事会には監査校も参加してもらう。また必要なときは幹事も加えることにする。理事会(監査も含めて)は、当分の間月1回とする。次回理事会11月17日(木)東京女子大短大図書館で開催する。

- (1)第2回総会は明年10月青森で行われるJLA全国大会のときに開催し、またJLA総会(東京、明年5月)のときには地区理事を含めた全国理事会を開催する予定で進める。記録 森 康子(青葉短大)

第2回 〈在京理事会記録〉

日時：昭和52. 11. 17 (木) 15.00 - 17.00

場所：東京女子大学短期大学部図書館

出席：会長及び安部、岡野、菅原の各理事。柴田監査、前川(近畿地区)理事。

I、報告事項

- 1) 安部常務理事より報告

- a) 九州地区協議会の様子の報告、11月10日西南女学院短大で開催、参加14館21名、安部理事が出席され、講演も行った。
- b) 加盟館状況11/17日現在113館
- c) 東北地区協議会第1回の集いの報告
- d) 東海大学医療技術短大から事務局への提案について

- 2) 菅原理事より：会報の編集進行状況について報告

- 3) 岡野理事より：私立短図協のPRとして図書館雑誌へ記事を依頼する件、原案提示、了解

II、協議題

- 1) 会報名 私立短期大学図書館協議会 会報
(Bulletin of Junior College Library Association)

- 2) 地区協議会活動における地域割について下記のとおり統一した。
- ㊶関東地区：東京、栃木、茨城、群馬、埼玉、千葉、神奈川、新潟、山梨、長野、
- ㊷中部地区：愛知、静岡、岐阜、富山、福井、石川、三重、
- ㊸近畿地区：大阪、京都、滋賀、奈良、和歌山、兵庫、岡山、
- 3) 私立短図協結成につき、PRをかねた挨拶状を会長名で全図連の7団体等に出す。
- 4) 全国組織と地区協との関係についてまだ未整備な点もあるので今後も継続して協議し整備する。
- 5) 次回理事会（在京）より、監査、幹事を含めた役員会とする。
- 6) 地区理事と在京理事とのコミュニケーションを密にするため、地区理事が上京の折には予め事務局あて連絡し、可能なかぎり地区理事も含めた役員会を開くことにする。
- 7) 次回在京役員会は下記より開催
12月14日（木） 15:00-17:00
文教大学女子短大会議室
記録：渡辺 敏一（東京女子大学短大部）

私立短大図書館協議会の歩み ◀昭和51年～昭和52年▶

- 昭51. 11. 27
私立短大図書館総会開催（於 共立女子大） 私立短大図書館の全国組織結成についてJLA短大部会よりアピール。総会は昭和52年内を目標として組織結成を行なうこと、およびその準備委員会の発足を決議。
- 昭51. 12. ～ 昭52. 4
JLA短大部会私立側幹事を準備委員とし、組織結成へ向けて準備委員会開催。
- 昭52. 5. 27
私立短大図書館協議会設立発起人総会開催（於 日本図書館協会）
- 昭52. 6 ～ 7
全国の私立短大図書館へ関係資料の配布と組織加盟への呼びかけ。
- 昭52. 9. 29
私立短大図書館協議会創立総会開催（於 大阪・建設保証ビル）。
- 昭52. 10. 13
第1回在京理事会（於 青葉学園短大）
- 昭52. 11. 10
第1回九州地区協議会（於 西南女学院短大）15校22名参加。
- 昭52. 11. 12
第1回東北地区協議会（於 聖和学園短大）7校14名参加。
- 昭52. 11. 17
第2回在京理事会（於 東京女子大短大部）

私立短期大学図書館協議会 昭和52、53年度 役員名簿

会長	もり、きよし（青葉学園短大）	地方選出理事	宮城 清（仙台白百合短大）
会長推薦理事		"	片山喜八郎（国学院大学栃木短大）
常任理事	安部 豊巳（東京女子大学短大部） （事務総括、会計、渉外担当）	"	梶田 一（愛知淑徳短大）
理事	岡野 盛繁（東横学園女子短大） （連絡、広報、記録担当）	"	前川 和子（大谷女子短大）
"	芝原 翠（東洋英和女学院短大） （研究活動担当）	"	川崎 文策（鈴峯女子短大）
"	菅原 春雄（文教大学女子短大部） （会報編集担当）	"	村上 博子（西南女学院短大）
地方選出理事	坂本 龍三（北海道武蔵女子短大）	監査	柴田さち子（立教女学院短大）
		幹事	森 康子（青葉学園短大）会長校 渡辺 敏一（東京女子大学短大部）事務局 青木 忠洋（文教大学女子短大部）会報校

私立短期大学図書館協議会加盟館名簿

昭和52年11月17日現在 113館

短期大学図書館名	〒	住 所	連絡責任職・氏名	T E L
----------	---	-----	----------	-------

< 北 海 道 >

岩見沢駒沢	068	岩見沢市緑が丘102	主任司書 宮下 誠	01262(2)1785
小樽女子	047	小樽市入舟町4-9-1	司 書 西 千恵子	0134(25)4569
帯広大谷	080	帯広市西5条南20-1	図書館司書 内河 京子	0155(24)4494
釧路	085	釧路市緑ヶ岡1-10-42	司 書 山本 和子	0154(41)0131
札幌幌大谷	065	札幌市東区北16条東9-372	司 書 佐々木 純子	011(742)1651
文化女子大学室蘭	050	室蘭市高砂町3-11-50	司 書 朝倉 真理子	0143(44)0561
北海道女子	069-01	江別市文京台23	司 書 西井 怜子	01138(6)8011
北海道拓殖	078-01	深川市納内町納内338	司 書 大島 香妃	01642(4)2811
北海道武蔵女子	001	札幌市北区北22条西13	館長補佐 坂本 龍三	011(721)3141

< 東 北 >

尚絅女学院	980	仙台市中山4-23-1	司 書 佐竹 義則	0222(78)8403
聖和学園	983	仙台市木ノ下2-5-1	図書館主任 高城 弘子	0222(57)1481
仙台白百合	981-31	泉市松森本田46	司 書 立岡 美津子	02237(2)3254
聖霊女子	011	秋田市寺内高野62-2	司 書 木 万理子	0188(45)4111
聖園学園	010	秋田市保戸野お町1-58	事務職員 田口 芳子	0188(23)1920
山形女子	990-23	山形市片谷地谷地515	司 書 及川 憲子	0236(88)2298
桜の聖母	960	福島市花園町3-6	司 書 矢吹 美保子	0245(34)7137

< 関 東 >

茨城キリスト教	319-12	日立市久慈町4048	司 書 浅野 恵美子	0294(52)3215
土浦	300	上浦市真鍋6-7-10	司 書 田辺 和子	0298(21)6125
常磐学園	310	水戸市見和団楼1-430	司 書 堀川 サダ子	0292(52)8411
国学院大学栃木	328	栃木市平井町608	司 書 太田 映子	0282(22)3123
白鷗女子	323	小山市大行寺上川原11117	司 書 諸星 ノリ子	0285(24)4300
千葉経済	280	千葉市森町4-3-30	司 書 古賀 実生	0472(55)3451
千葉明德	280	千葉市南生実町1412	図書館事務 吉野 勝子	0472(65)1611
和洋女子	272	市川市国府台2-3-1	主任司書 中村 重敬	0473(72)3376
関東学院女子	236	横浜市金沢区六浦町4834	図書係長 松本 久子	045(781)2001
相模女子	228	相模原市文京2-1-1	総務主任 松本 進	0427(42)1411
調布学園女子	214	川崎市多摩区生田7538	司 網本 正巳	044(966)9211
鶴見大学女子	230	横浜市鶴見区鶴見町2-1-3	総務主任 海野 雅央	045(581)1001
東海大学医療技術	259-12	平塚市南金目143	図書館係長 宗清 康祐	0463(58)1211
フエリス女学院	231	横滨市中区山手町68	図書館事務室長 堀内 浜代	045(681)6236
青葉学園	154	東京都世田谷区世田谷 3-12-19	司 書 森 康子	03(429)8101
川村	171	東京都豊島区目白2-22-3	司 書 八田 由美子	03(984)8321
白梅学園	187	小平市小川町1-830	主任司書 石井 浅子	0423(42)2311
田中千代	191-01	町田市三輪町704	図書館職員 戸塚 亮子	044(988)5111
東京工芸	164	東京都中野区本町2-9-5	司 書 関 美智子	03(372)1321
東京女学館	150	東京都渋谷区広尾3-7-16	館 長 大原 瑛子	03(400)0861
東京女子体育	157	東京都世田谷区北島山8-7-1	司書係長 山岡 和子	03(300)2251

東京女子大学	181	三陽市牟礼4-3-1	図書館課長	安部 壘 巳	0422(45)4145
東京成徳	114	東京都北区十条台1-7-13	館長	滑川 道夫	03(907)0541
東京文化	164	東京都中野区本町6-38-1	館長	高橋 静 枝	03(381)0196
東京立正女子	166	東京都杉並区堀ノ内2-41-15	事務長	兵庫谷 爽	03(313)5101
東洋英和女学院	106	東京都港区六本木5-14-40	主任司書	芝原 翠	03(585)3038
横学園女子	158	東京都世田谷区等々力8-15-1	図書館事務課長	岡野 盛 繁	03(702)0111
日本赤十字武蔵野女子	180	武蔵野市境南町1-26-33	司書	高橋 あき子	0422(31)0116
文化女子大学	151	東京都渋谷区代々木3-22-1	司書課長	古田 隆 吉	03(370)3111
文京女子	113	東京都文京区向丘1-19-1	司書主任	加賀谷 美代子	03(814)1661
武蔵野女子大学	188	保谷市新町1-1-20	係長	井形 道 雄	0424(62)3111
目白学園女子	161	東京都新宿区中落合4-31-1	(館長)	片桐 一 平	03(952)0281
立教女学院	168	東京都杉並区久我山4-29-23	主任司書	柴田 さち子	03(334)5104
文教大学女子	142	東京都品川区旗の台3-2-17	課長補佐	菅原 春 雄	03(783)5511
長岡市岡	940	長岡市御山町80	図書館司書	荒井 三次郎	0258(33)8768
新潟	945-13	柏崎市安田2510-2	司書	小栗 喜三子	02572(2)5171
北陸	920-13	金沢市三小牛町411	司書	高島 涼 子	0762(43)3845
身延山	409-25	山梨県南巨摩郡身延山3567	司書	桑名 貫 正	05566(2)0107
山梨英和	400	甲府市愛宕町360	館長補佐	飯室 幾 造	0552(52)7890

< 中 部 >

大垣女子	503	大垣市中野町606-1	図書館事務室長	野村 成 章	0584(81)2662
高山山	506	高山市下林町1155	司書	古矢 多美子	0577(32)4081
愛知淑徳	464	名古屋市千種区桜が丘23	司書	夏目 あきあ	052(781)1151
市郷学園	484	大山市内久保乙61-1	館長補佐	間宮 照 子	0568(67)0616
海学園女子	468	名古屋市天白区天白町平針	司書主任	醍醐 光 子	052(801)1201
東名古	470-11	豊明市栄町武侍48	司書	鈴木 明 晴	0562(97)1306
瑞穂	467	名古屋市瑞穂区春殿町2-13	副館長	丹 羽 美 智子	052(882)1815

< 近 畿 >

暁学園	512	四日市市萱生町城山238	司書	森 芳 子	0593(65)2261
光華女子	615	京都市右京区西京極葛野町38	副館長	加藤 爽 実	075(312)1783
平安女学院	602	京都市上京区下立売通烏丸西入	司書	井上 宏 二	075(431)1181
京都芸術	606	京都市左京区北白川瓜生山2-116	司書	久保 美 絵	075(791)9121
大阪学院	564	吹田市岸部南2-37-1	司書係員	岩下 康 夫	06(381)8434
大阪蕨英女子	564	摂津田市正雀1-4-1	(学長)	小川 静 枝	06(381)6548
大阪城南女子	546	大阪市東住吉区矢田住道町804	図書館主任	北村 しげみ	06(702)9783
大阪女学院	540	大阪市東区東雲町2-200	図書委員	丸本 澄 子	06(761)9371
大阪女子	583	藤井寺市春日丘3-8-1	館長	橋元 登 江	0729(55)0733
大阪成蹊女子	533	大阪市東淀川区相川中通2-5	館長	上田 重 彦	06(340)1515
大阪千代田	586	河内長野市楠町西1211	司書	前島 みゆき	07215(2)5715
大谷女子	545	大阪市阿部野区共立通2-8-4	館長	前川 和 子	06(661)0383
大手前女子	540	大阪市東区大手前之町2-10	館長	大植 茂 雄	06(941)1106
金蘭	565	吹田市藤白台5-125	図書係員	西川 照 一	06(872)0673
樟蔭東女子	578	東大阪市若江西新町3-1-8	司書	上田 榮 子	06(723)5511
聖母女学院	572	寝屋川市美井町18-10	司書	酒井 千鶴子	0720(31)1381
相愛女子	541	大阪市東区本町4-27	主任司書	木村 村 靖	06(262)0621
帝国女子	570	守口市藤田町6-173	司書	堀井 保 彦	06(902)0791
帝塚山学院	558	大阪市住吉区帝塚山中3-66	司書	瀬古 輝 子	06(672)1151
常磐	547	大阪市平野区平野南4-6-7	館長	桑 島 正 二	06(709)3170

梅	花	560	豊中市上野西1-5-30	司	書	林	たつえ	06(852)0001
ブール	学院	544	大阪市生野区勝山北1-1-19	司	書	森	田聡子	06(731)3190
近畿大学	豊岡女子	668	豊岡市戸牧上大深160	整	理	係	山根順子	07962(2)6361
松蔭	女子学院	651	豊岡市葦合区中島通1-1-24	司	書	井	中七穂	078(241)5980
頌	栄	650	神戸市生田区中山手通6-36	司	書	遠	藤玲	078(341)2477
兵庫	女子	675-01	加古川市平岡町新在家2301			近	藤幸子	0794(24)0052
和歌山	信愛女子	640	和歌山市屋形町2-9	司	書	川	口知子	0734(24)1141

<中国・四国>

鳥取	女子	682	倉吉市福庭854			安	達千恵子	08582(6)1811
山陽	女子	738	広島県佐伯郡廿日市町佐方666	館	長	金	指正三	0829(32)0909
鈴峯	女子	733	広島市井口4-6-18	主	任	川	崎文策	0822(71)4121
ノートルダム	清心女子	733	広島市己斐東1-10-1	司	書	西	谷春恵	0822(71)0413
比治	山女子	730	広島市牛田新町4-348	司	書	柳	幸三保子	0822(29)0121
宇部	部	755	宇部市文京町5-40	図書館	課長	新	造文紀	0836(33)3111
高松	松	761-01	高松市春日町960	図書館	事務	渡	辺比刀美	0878(41)3255
愛媛	女子	798	宇和島市伊吹町馬場421	館	長	上	原豊	0895(22)0156
高知	学園	780	高知市旭天神町陣ヶ森292-26	司	書	久	万美香	0888(44)1277

<九州>

精華	女子	816	福岡市博多区板付大西田51-1	司	書	木	稲律子	092(591)6331
西南	女学院	803	北九州市小倉北区井堀1-3-1	主任	司書	村	上博子	093(561)2631
第一	保育	818-01	福岡県筑紫郡太宰府町君ヶ畑2829	司	書	筒	井寿美	09292(2)7231
東筑	紫	803	北九州市小倉北区下津5-1-1	主	任	横	田愷之	093(561)2136
福岡	女学院	816	福岡市南区上日佐35	主	任	波	多野栄子	092(581)1492
福岡	女子	818-01	福岡県筑紫郡太宰府町太宰府3114	主	任	副	島秀夫	09292(2)4034
佐賀	竜谷	840	佐賀市水ヶ江3-5-13	司	書	久	地井寿美子	0952(24)2626
鎮西	学院	854	諫早市栄田町1057	司	書	吉	田美砂子	09572(6)2072
銀杏	学園	860	熊本市清水町大塚819	司	書	原	万恵	0963(44)7611
中九州		866	八代市平山新町4438	司	書	中	原由美子	09653(4)7651
扇城学園	中津女子	871	中津市一ツ松211					0979(22)2425
別府	女子	874-01	別府市野田78	館	長	後	藤正毅	0977(66)0224
緑ヶ丘	学園	882	延岡市緑ヶ丘5-667-1	司	書	甲	斐いつ子	0982(33)3203
鹿児島	純心女子	890	鹿児島市鴨池町1847	(教	授	荒	木敬蔵)	0992(54)4121
沖縄	キリスト教	903	那覇市首里当蔵町3-6-1	図書	主任	西	銘純子	0988(54)1131

注：連絡責任者名は申込書によった。

編集後記

今回、短図協会報創刊号ができあがりましてお届けいたします。会報は協会の当面の活動として会報を通じて地区活動や他館の様子など紹介し、情報交換を高めようとして企画されたものです。年2回刊行を予定しておりますので、どしどし自館の紹介や問題点を出して下さい。それが相互協力による問題解決や充実発展の糸口となれば幸いです。会報も加盟館の協力により育てて行くものと思います。よろしく御協力をお願いします。

発行所 私立短期大学図書館協議会 〒181 東京都三鷹市牟礼4-3-1

東京女子大学短期大学部図書館内 Tel: 0422-45-4145